

プログラム番号	06045
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	広島大学 大学院教育学研究科		
②学長名	牟田 泰三		
③所在地	〒739-8511 東広島市鏡山一丁目3番2号		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	教育学研究科学生支援室・主査	
	担当者氏名	河野 進	e-mailアドレス kyoiku-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp
	電話・FAX番号	(学生支援室) 電話：082-424-6719・Fax：082-424-7108 (留学生特別コース担当教員 桑山尚司) 電話/Fax：082-424-7059	
⑤ホームページ URL	<a href="http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/kokusai/index.html">http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/kokusai/index.html</a>		
⑥大学院在学留学生数	569人(うち、国費留学生 191人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	教育学研究科留学生特別コース
②プログラムの形態	博士課程前期(2年間)
③実施研究科・専攻	大学院教育学研究科 言語文化教育学専攻
	(所在地) 〒739-8524 広島県東広島市鏡山一丁目1番1号
④連携大学・研究科・専攻名	学習科学専攻 障害児教育学専攻 科学文化教育学専攻 生涯活動教育学専攻 教育学専攻
⑤受入れ学生数	10人(うち研究留学生優先配置人数：5人) (うち日本人学生数：0人)
⑥担当教員数	合計 28人(うち専任：27人、兼任： 人、非常勤：1人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 大学院教育学研究科・研究科長
	研究科長名 坂越 正樹

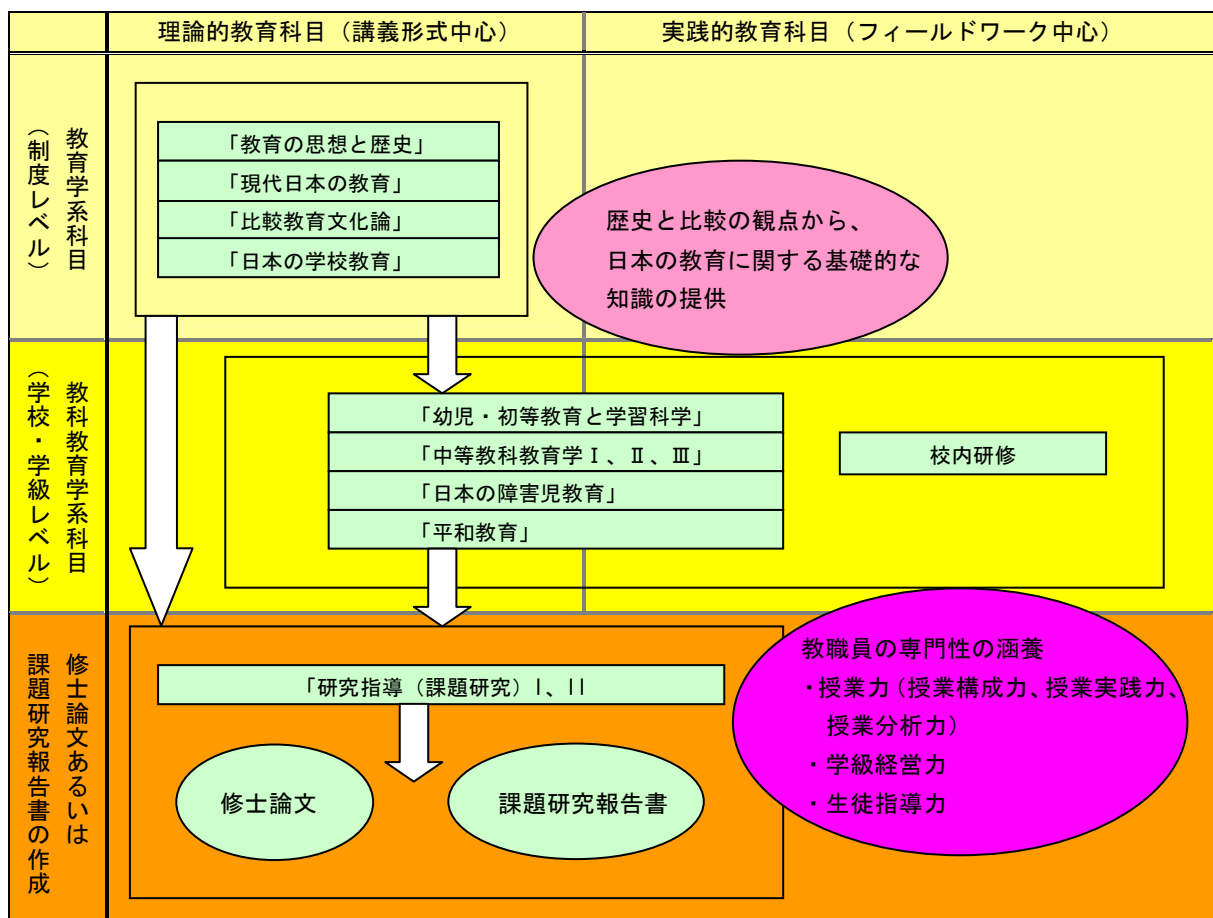
### 【3. プログラムの内容】

#### ① プログラムの目的

一般に日本の学校教育は国際的に高い評価を得ているが、その基盤となる教員養成において広島大学大学院教育学研究科は教員研修留学生の教育などを通して高い実績を有している。今後、アジアの教員養成においてさらなる国際貢献を行うべく、広島大学大学院教育学研究科留学生特別コースでは、アジア13カ国（ASEAN10カ国、中国、韓国、モンゴル）から現職の学校教員又は教育行政担当者を招き、高度に専門的な能力を有し本国の教育発展に大きく貢献できる指導的人材を養成する。

#### ② 内容及び特色

本プログラムでは、幼稚園から中等教育までの日本の学校教育について制度レベルから学校・学級レベル、さらに研究指導に至るまで体系的な教育を行う。本プログラムの履修科目内容は多岐にわたり、そのうち必修科目の構造図を以下に示す。



#### 教育学系科目（制度レベル）

必修科目のうち、「教育の思想と歴史」「現代日本の教育」「比較教育文化論」「日本の学校教育」の4科目は講義形式を中心として、主に制度レベルでの日本の教育に関する基礎的な知識の提供を行なう。日本を中心にアジア、また欧米の教育制度について学ぶことを通して、母国の教育制度の特徴や学校教育の現状について幅広い理解を得ることができる。

#### 教科教育学系科目（学校・学級レベル）

「幼児・初等教育と学習科学」「中等教科教育学Ⅰ」「中等教科教育学Ⅱ」「中等教科教育学Ⅲ」「日本の障害児教育」「平和教育」では、学校・学級レベルでの理論と実践を取り扱い、「校内研修」においてさらにフィールド・スタディの経験を積むこととなる。留学生各自の専門に関わらずすべて

の教科および領域の学習を積むことにより、日本の学校の現状に対する深い理解を得ることができる。

### 研究指導（課題研究）

各必修教科によって培われた知識と経験は、「研究指導（課題研究）Ⅰ」「研究指導（課題研究）Ⅱ」において各人の専門領域について醸成され、修士論文あるいは課題研究報告書として結実する。修士（教育学）あるいは修士（学術）の学位取得のためには、これらの作成が義務づけられており、日本の教育の経験や実際を出身国・地域の教育にどのように活用するかを研究することとなる。2年次は修士論文作成のための研究指導に当てられ、留学生に対する論文指導はきめ細かな個別指導によって行われる。

本プログラムの特色は、講義形式による教育だけでなく、本学附属の幼稚園、小学校、中学校、高校及び近隣の公立学校における授業を参観したり、教育委員会や教育センターでの公的研修や各学校での校内研修を参観したりすることによって、我が国の教育の生の現実に触れる機会を提供することにある。フィールド・スタディによって、我が国の教育に対する理解が一層深まるだけでなく、教育に関する高度職業専門人としての見識が養われることとなる。学校等での教育の現実を実際に観察し、教員や児童・生徒に接することにより、教育の改善に向けて教職員が努力している姿も理解されるであろう。本研究科が柱とする教員の専門性とは、授業力（授業構成力・授業実践力・授業分析力）、学級経営力、生徒指導力にある。理論と実践を必修科目上で適切に統合することにより、こうした専門性が涵養される。

### ③ 教育・指導体制

全て英語によって授業と研究指導を行うことにより、日本語という留学の障害を軽減し、2年で修士の学位を取得させる。留学生は、所定のカリキュラムに沿って授業を履修し、さらに、それぞれの専門分野の個別研究指導を主指導教員のもとで受けることになる。研究科内には留学生特別コース専用の院生室があり、各教科書、書籍、インターネット等を含めた教育・研究環境も整備されている。

さらに、広島大学大学院教育学研究科と県内の学校や教育委員会・教育センターとの強固な協力関係が本プログラムの特徴を支えている。県内の多くの教育施設を訪問することによって留学生に学びの場を提供するだけでなく、留学生が地域の学校の国際色豊かな教育活動に貢献していく、互恵的関係を持つことが可能になる。

また、広島大学留学生センターの協力のもと、700名を越える各国からの留学生に対して、日本人学生や地域社会との豊かな学問的・社会的交流の場が提供されることとなる。具体的には、留学生センターは1996年以来「国際交流ボランティア」を組織しており、学生チューター・会話パートナーなどの日本人学生や様々な国際交流活動を通して、交流の機会を充実させている。その他、カリキュラム上の選択科目については、日本人学生との共同受講が可能な科目もあり、教育学研究科の日本人学生との学問的交流の機会となる。

### ④ 求められる学生像と修了後への期待

本プログラムは、5年以上の実務経験を有する35歳未満の現職教員あるいは教育行政官を対象とする。入学者は、元の職を保持したまま入学し、本国で培った知識と経験を基盤として自らの能力を高めていくことが求められる。

修了後は、日本の教育文化に精通した高度専門職業人として、母国の教育の管理運営や授業の改善、カリキュラム開発に貢献することが期待される。修了生は、本研究科と引き続き密接なネットワークを形成する。彼らの修士論文や課題研究は出身国の教育情報の蓄積となり、本プログラムは相互交流の基盤となる。修了生を送り出すたびに強固となる人的ネットワークは、各国の教育課題の解決のために活かされることとなる。また、修了生が本国に帰国した後、各国の学校の教壇で日本の教育や社会、文化を多数の児童生徒に伝えることや、教育行政において日本との友好関係を広げる礎となることが期待される。